(公社)長崎県理学療法士協会 広報誌

発　　行　公益社団法人　長崎県理学療法士協会
〒851-2103　長崎県西彼杵郡時津町元村郷800番地
長崎北病院 リハビリテーション科内
TEL&FAX　(095)881-1662
発行責任者　塩塚　順
編　　集　大石　勝規
印　　刷　株式会社　インテックス

ぴーかんてらす

P-can Terrace

02
【通算119号】

理学療法士の役割って?

Physical Therapist

p2 ぴーかん特集／理学療法士に期待される予防とは?

Contents

p04 ぴーかん特集
介護報酬改定―理学療法士の視点
p06 NPTAの国際交流／韓国釜山で学術大会
p07 NPTAの社会活動
p08 健康テラス／脳卒中について
p09 理学療法士の生涯学習
p10-11 NPTAの活動〈スポーツ・学術〉
p12 日本理学療法士協会50周年について

援

予防から自立までのたゆまない支援

ぴーかん特集 理学療法士に期待される予防とは?

これからの社会に必要な視点!

創刊号では、理学療法士の仕事を紹介しました。
今回は、その中から『予防』について話をしていきます。

『健康』と『予防』と『理学療法士』

社会は豊かになり、長寿命化したこの国で健康寿命を延伸することが求められる時代ではないかと思います。身体的にも精神的にも満たされた状態こそが求められ、単に病気や障がいがないということでなく、どんな状態でも社会参加できることを求められているのではないでしょうか。このためにも理学療法士が『予防』にかかわる使命を感じます!

医療機関で検査や治療を受けることに慣れた私たちにとって、**「予防医療」**という言葉はあまりなじみがありません。しかし、医療の目的には治療することだけではなく、病気の重症化や再発など、**病状の悪化の予防**も含まれます。また、健康な人が将来、病気にならないように野菜の摂取を心がけたりウォーキングを始めたりすることなど、健康な人が**健康を維持・増進する**行動も含まれます。医療を健康維持・増進、病気の予防という視点から包括的に捉え直し、私たち一人ひとりが今、何をすべきかという行動指針を示してくれるのが予防医療なのです。

不調を感じ病気と診断されて、薬を飲みはじめる、運動を始める**二次予防**のみならず、健康な心身や健全な社会を保つという**一次予防**にも範疇を広げた活躍ができればと思います。

理学療法士は通常、医師の診断のもと指示(処方)を受けて診療を行います。しかし、厚生労働省医政局は、介護予防事業などにおいて、身体に障害のないものに対して、転倒予防の指導など診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときに『理学療法士』の名称を使用することを通知するなど、理学療法の領域拡大を支援している社会的背景もまた、私たち理学療法士への**"期待"**であり、**"使命"**であると感じます。

理学療法士が関わる予防について

予防を行うにあたって、様々な視点において身体の特徴や癖を把握することが重要です。体の特徴や癖は生活習慣から作られ、繰り返される習慣や動きが身体の一定の部分に負担がかかることで病気や障害の発生、悪化を引き起こします。身体の特徴や癖を作る生活習慣を把握し、その動きを見直すことで病気、障がいの予防が行えます。

理学療法士が個々の対象者や社会、集団に対して、様々な心身の状態を評価し、把握することで、今後起こりうる病気、障害を予測し、運動や生活習慣に対して指導し病気、障害の発生や悪化予防を行っていきます。これまでの医療における知識の集積を活かし、さらに健康な社会作りに必要な理学療法を研究していかなければなりません。

国民がいつまでも「参加」し続けるために、様々な健康な状態を害するメカニズムの解明と発生の予測、予防法の開発、機器の開発、社会活動の創出、制度の立案などを研究する必要があります。公益社団法人日本理学療法士協会は『日本予防理学療法学会』を分科会として立ち上げ、力を注ぎ始めております。

予防に勝る治療なし!!

生活習慣病予防

生活習慣病には主に高血圧、高脂血症、糖尿病などが挙げられます。高血圧や高脂血症は脳梗塞や心疾患、閉塞性動脈硬化症などを引き起こします。糖尿病は網膜症や腎障害、神経障害を惹き起こす原因になります。

これらの生活習慣病は日々の生活習慣が主に関わってるので、生活習慣を見直すことが大切になってきます。

理学療法士は個人の身体能力に合わせて、有酸素運動や筋力トレーニングの指導を行い、生活習慣病の予防に関わっています。

傷害予防

スポーツ活動において傷害、外傷の予防を行うことは重要です。傷害や外傷を伴うことで当然ながらパフォーマンスは低下し、さらなる傷害を引き起こす原因にもつながります。

傷害、外傷は身体の柔軟性低下、筋力低下やトレーニング前後での準備不足などが原因で惹き起こされます。

理学療法士は柔軟性の低下や筋力低下などに対してクーリングダウンやストレッチ、筋力トレーニングなどを個別に指導し、傷害、外傷の予防に努めています。

認知症予防

高齢者が増加することで認知症者は増加してきます。そして、認知症の症状悪化はその人の生活能力を著しく低下させ、介護が必要となります。

認知機能の低下には悪い生活習慣や運動不足が関係しており、豊かな人間関係や精神活動、身体活動が認知機能の低下を防止します。

理学療法士はその人に合わせて運動機能、認知機能を評価し、柔軟性や筋力を含む運動や頭と身体を同時に使う有酸素運動を指導しながら認知症予防を行っていきます。

転倒予防

高齢者の転倒で寝たきりに陥る高齢者は10〜20%にも達し、要介護状態を引き起こすことが深刻な社会問題になっています。

転倒の危険因子には筋力低下、転倒歴、歩行能力低下などが挙げられます。筋力低下のある高齢者はそうでない高齢者に比べ4.4倍も転倒する危険性が高いとされており、転倒経験がある物は3.0倍転倒する危険度が高くなります。

理学療法士は筋力やバランスなどの個人の身体特性を把握し、個別の運動プログラムを指導します。また、手すりの設置や段差解消などの環境調整をすることで転倒予防を行っていきます。

介護予防

高齢者であっても運動機能向上のトレーニングにより効果が期待できること、社会活動が盛んな高齢者は老化が進行しにくいことがわかっています。そのため、高齢者がいつまでもその人らしく自立して生活していくために、介護予防は重要になってきます。

介護予防には元気な高齢者が要支援・要介護になることを防止する「一次予防」。虚弱高齢者・要支援者が要介護になるのを防止する「二次予防」。要介護者が閉じこもりになることを防止する「三次予防」があります。

理学療法士は介護予防の中で、心身機能の評価、生活活動向上に向けたプログラムの提案などを行い、地域経済を支える元気な高齢者を作ります。

予防理学療法の主な領域

- 健康増進、ヘルスプロモーション
- スポーツや就労を通した健康つくりや傷害予防
- 介護予防、転倒予防、虚弱高齢者の管理
- 再発予防に資する運動習慣、行動変容
- 予防の社会的支援、制度設計に資する科学的検証

ぴーかん特集

介護報酬改定――理学療法士の視点

ここが変わった!! 「介護保険改定」の 3つのポイント

平成27年4月に実施された介護報酬改定では、地域包括ケアシステム（前号特集ページ参照）の構築をさらに進めるべく、3つのポイントが示されました。

注目すべき改定項目

◆リハビリマネージメント加算Ⅱ
◆短期集中個別リハビリテーション
◆認知症短期集中個別リハビリテーション
◆生活行為向上リハビリテーション

➡より計画的かつ個別性のある関わり
地域、社会、参加を意識した関わり

介護人材確保

〈介護老人福祉施設、介護老人保健施設など〉
◆介護福祉士6割以上:18単位/日
◆介護福祉士5割以上:12単位/日

➡充実した人材から充実した
サービス提供を

キーワードは

活動と参加

Q1 介護保険改定の狙いは？

より介護が必要な方、認知症の方への対応を強化します！

A1

「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう」にするためには、介護が必要な状態や認知症になったとしても安心して生活できるよう、サービスの充実を図る必要があります。今回の改定では、自分らしい生活を送るため、リハビリテーションの理念を踏まえ、**活動と参加**に焦点をあてた新しい報酬体系が導入されました。

特に通所リハビリテーション（デイケア）では、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が医師をはじめ、ケアに関わる多職種で意見交換をする「リハビリテーション会議」を実施するようになりました。このことにより、私たち理学療法士もただ漫然と機能訓練を行うだけでなく、「足腰が強くなった」、「歩けるようになった」という機能の向上をより生活での**活動と参加**に繋げる**リハビリテーションマネジメント**（管理）の視点が重要になりました。

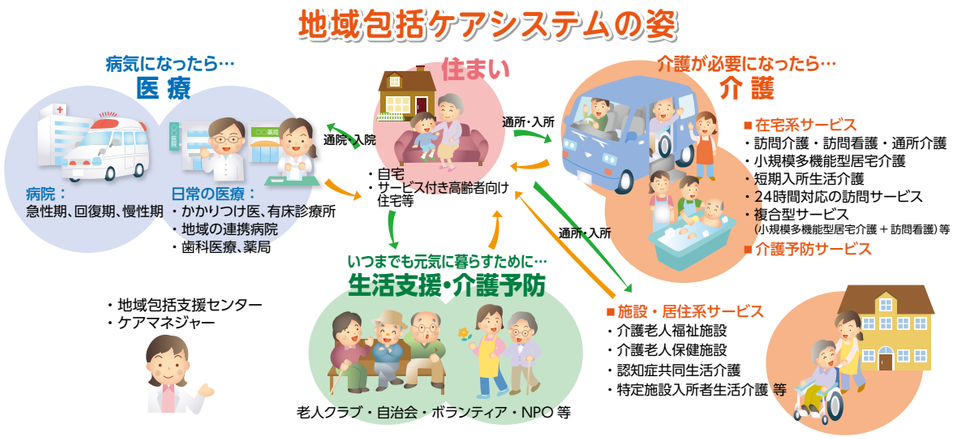
また、他にも自分らしい人生の終末を迎えるための看取りの対応が充実しています。いつまでも自分の口から食べる楽しみを得られるよう支援の充実が図られています。

自立支援 医療から介護へ!

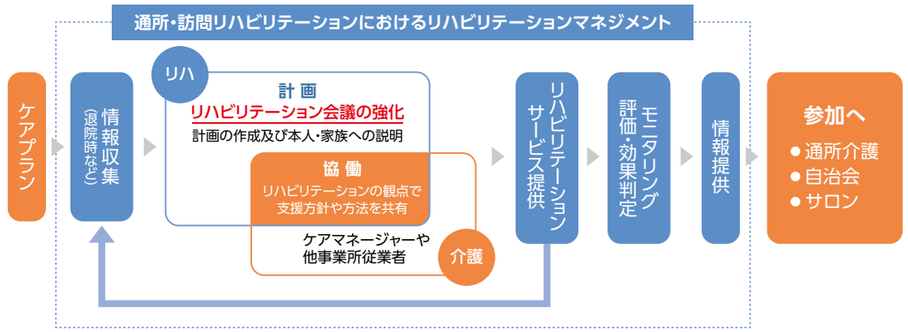
これからの理学療法士に求められるモノは？

今回の改定は私たち理学療法士にとって『**原点回帰**』する良い機会になったと思います。地域包括支援システム構築に向け生活を支え**自立支援**を促し、医療から介護へ円滑に移行できるような視点を、再度見つめ直す必要があります。

地域包括ケアシステムの構築に向けた対応（119回社会保障審議会介護給付費分科会資料より）



活動と参加に向けて（119回社会保障審議会介護給付費分科会資料より）



Q2 高齢者人口増加にどう対応する？

介護の担い手を充実させます！

A2

高齢者人口の増加に伴い介護ニーズはさらに高まります。そこで、質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みも推進しています。具体的には、介護の担い手である介護職員の処遇検討や介護のプロである介護福祉士をより多く配置している事業所への報酬体系が導入されています。

Q3 安定した介護保険制度を継続させるために必要なものは？

サービス内容の適正化を図ります！

A3

地域包括ケアシステムの構築に向け、今ある介護保険制度が継続性のあるものでなくてはなりません。そのため各サービス提供の実態を踏まえて必要な適性化を図るとともに、サービスが効果的・効率的に提供できるようにしました。例えば、集合住宅に居住している利用へのサービス提供時の減算やデイケア、通所介護（デイサービス）で、送迎が行われていない場合の減算などの見直しが行われています。

【話題提供】
医療法人友愛会 介護老人保健施設 にしきの里 理学療法士　飯野朋彦氏

国際交流

釜山PT協会と長崎県PT協会のこれまでの交流について

さて、なぜ長崎と釜山の理学療法士(PT)協会の交流が生まれたのか、ひも解いてみたいと思います。日本PT協会は韓国PT協会との第一回合同カンファレンス(平成24年11月)を長崎市で開催いたしました。両国のPTの活動状況や医療・介護保険分野での研究、地域でのリハビリテーション普及などを中心に講演会や演題発表が行われ、PTの学生なども交えての盛況な国際学会となりました。両国ともリハビリテーション分野においては高齢化など抱える共通の課題があることや、韓国との交流を深めることを通してアジアのリハビリテーションの発展を牽引する一歩になればと期待されています。その際、当協会の塩塚会長が運営委員長として中心的に尽力され、韓国PT協会役員と交流が生まれました。そのことがきっかけとなり、今では韓国PT協会と一番近い立場として日韓相互の発展に寄与されています。また、平成25年に釜山側からの打診があり、東京都PT協会・ソウルPT協会に次いで2番目に長崎県PT協会と釜山PT協会が学術交流に関するMOU(Memorandum of Understanding"了解覚書)を締結しました。現在、お互いの学術大会や研修会などで講演活動や役員間の交流も活発に行われています。

▲釜山PT学会のスタッフの皆様

◀開会式で挨拶する塩塚会長

韓国釜山物理療法士学術大会での活動報告

平成27年4月に開催された韓国釜山物理療法士学術大会に、長崎県理学療法士協会から会長と3名の理事が参加しました。今学会での活動と、これまでの釜山PT協会と長崎県PT協会との交流の経緯も踏まえて報告します。

長崎PT協会からも役員2名が講演を実施!

釜山PT学術大会では西本理事と私(浦川理事)の講演を行いました。学術大会には1,000人以上の参加があり大変活気のある会でした。

西本理事は「新しい脳血管障害患者へのリハビリテーション」と題し、徒手療法や最新機器を用いたリハビリテーションの紹介を行いました。初めてみる先進的なリハビリテーションとその結果に対し、出席者の多くが興味深く聞きいっていた姿が印象的でした。

▲講演中の浦川理事

私は「上田法について」と題し講演させていただきました。実は上田法については釜山PT協会会長が10年程前より日本の書籍を通じてご存じだったとのことで、ご要望いただきました。

質問も多数いただくなど熱心に聞いていただきました。フロアでも"患者さんのために"という思いが強く伝わる話をいただき、リハビリテーションの理念とともに向かう方向は同じだと感じました。今後韓国で上田法講習会も開催したいとの意向もお伺いし、更に交流が発展していくきっかけになったことを嬉しく思いました。

▲学会会場前にて　左から
釜山イ会長、西本理事、塩塚会長、
浦川理事、小無田事務局長

韓国の文化に触れて…

釜山に行って感じたことは、皆さん日本についてかなり詳しいということです。日本のアニメやドラマを知っている人、片言でも日本語を話せる人が多いです。韓国語と日本語の同音同意の言葉を沢山教えて頂きました(九州はもともと交流が盛んなので結構あるんですよ!)。韓国語と日本語は文法が近いため覚えやすい、英語より安く学べるとのことで人気もあるそうです。しかし、皆さん漢字が大変で後悔するといわれてました…。

また今回、どこに行っても新鮮な海と山の幸の美味しい料理を頂きました。釜山牛、参鶏湯、種類豊富なキムチ…。また食事後の広安大橋の夜景一望のラウンジでの語らいなど、とにかく寸暇を惜しんで楽しませようとされる心遣いに感激でした。

すぐお隣の国同士、もっともっとお互いを知り合い、共に学んでいくことで更に発展していけると確信を持つことができた旅となりました。

▲交流会で出た参鶏湯

社会活動

＼ケガを予防し最高のプレーを!／

第10回 長崎県理学療法士協会杯少年ソフトボール大会

8月30日(日)に佐世保市立春日小学校グラウンドで第10回長崎県理学療法士協会杯少年ソフトボール大会が行われました。

【活動の趣旨】
スポーツ障害に対する知識を広め、日頃の練習に対するケアの重要性や気をつけることなどの指導を通じて理学療法士を広く知っていただくこと

【参加人数】
選手:133名　監督・保護者:約100名　スタッフ:35名
計268名

【内容】
- 選手へのストレッチ指導
- 選手へのスポーツ障害指導
- 保護者へのスポーツ障害指導
- 監督・保護者の相談コーナー
- テーピングの指導

子供たちの反応は良く、保護者にとっても日頃の疑問を解消する良い機会となりました。来年度も継続して行ない、スポーツ障害の予防の啓発を行っていきます。

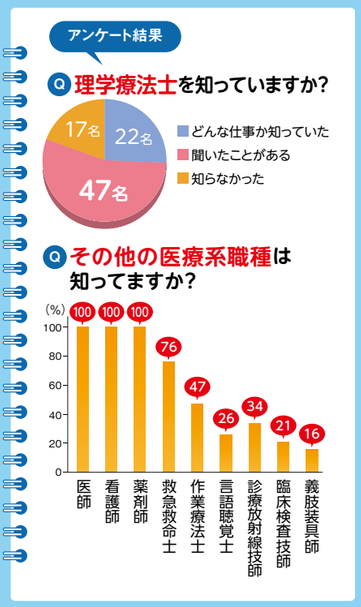
事業報告:健康増進部

7月17日は理学療法の日!!

理学療法士フェスティバル in 島原・諫早

フェスティバルの内容

①パネル展示コーナー
②体験コーナー
(握力測定、Stim Upによるバランス・姿勢矯正体験)
③リハビリ取得・進路相談コーナー
④アンケートコーナー
⑤リーフレットの配布　など



知って欲しい!!理学療法士のコト

理学療法士の日にちなんで、地域の方々に理学療法士について知っていただこうという想いを込めて、**島原夜市、諫早川祭り**でイベントを行いました!!

場所:島原市一番街アーケード内　柴田長庚堂病院　アプリコット『結』

握力測定体験ブースでは150名程度、バランス測定体験ブースでも100名程体験され、イベントは大いに盛り上がりました!

アンケート結果の内容では、**『理学療法士の認知度』の問に対し、約80%の方が「どんな仕事か知っていた」「聞いたことがある」**と回答してくださり、『理学療法士』という認知度も徐々に上がっていると感じました!!

島原地区事業報告者
野口　浩孝(池田病院)

場所:諫早アエルアーケード内

この日は、諫早川祭りが開催されており、花火も上がるなど会場周辺も大盛り上がりでした!そのため、10代の方々も多数立ち寄ってくださいました!!

この日の啓発活動が、介護予防の大切さを少しでも認識していただき、若い世代の方々に「将来は理学療法士になりたいなぁ」と夢を持ってもらえるような催しになっていればと思います!!

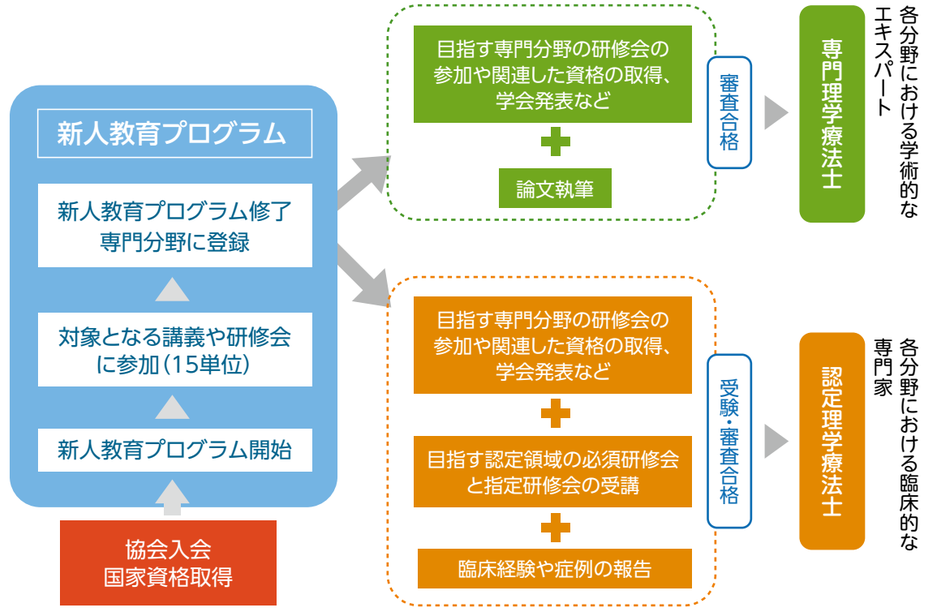
諫早地区事業報告者
林田　貴文(恵仁荘)

バランスボール座位保持を年代別に分け、タイム計測を行ったりして、体力検査の体験をしていただきました!

社会に必要とされる人材の育成のために

日本理学療法士協会の生涯学習システム

新卒の資格取得者は協会入会後、最短1年間のうちに指定された15単位（平成24年度以降入会で、大学・高度専門士養成校出身者は13単位）を取得します。各都道府県理学療法士会が実施する研修会にて新人教育プログラムの単位を全て履修し、新人教育プログラムを修了すると、専門分野の登録を行うことで、認定・専門理学療法士制度へ移行します。



日々の治療に役立てたい!!

平成27年度 第1回学術研修会開催

■場所　長崎市平和会館ホール
■日時　平成25年7月20日（月）

遊佐 隆 先生（松戸整形外科病院、理学療法士）を講師としてお招きして「肩関節機能改善のPNFアプローチ」というテーマでご講演いただきました。

PNFアプローチとは『固有受容性神経筋促通法』と呼ばれている、身体の感覚に対して様々な刺激を用いて、神経や筋肉の反応を促す理学療法士が用いる理論や手技になります。

今回、日頃の診療に役に立つ実技も交えてご講演いただきました。また、多数の会員の皆様の参加により大盛況の研修会になりました!!

学術研修会は、理学療法士の学術レベルの向上を目的に、年2～3回開催しております。例年、若手の会員の参加が多いなか、最近では認定・専門理学療法士を目指す会員の参加者も増えてきております。自分のスキルを磨くことで少しでも患者さんを良くしたい、回復させたいと頑張っておられる志の高いセラピストの一助となれるよう、今後も活動していきたいと思っております。

学術研修部部長　牧野真也

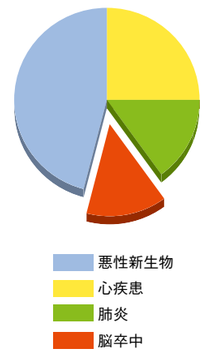
健康テラス

脳卒中を“防ぐ”ために

朝夕は冷え込む季節になって参りました。今回は冬に増加すると言われている“脳卒中”について紹介したいと思います。

その❶ 脳卒中とは？

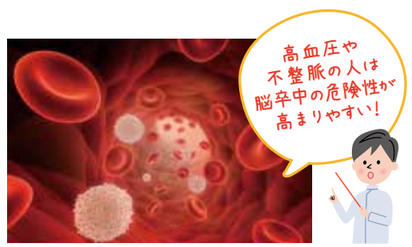
脳血管障害（脳卒中）は、脳の血管が詰まる脳梗塞と脳の血管が破れる脳出血・くも膜下出血に分けられます。脳卒中は日本人の死因第4位に挙げられている大変怖い病気です。



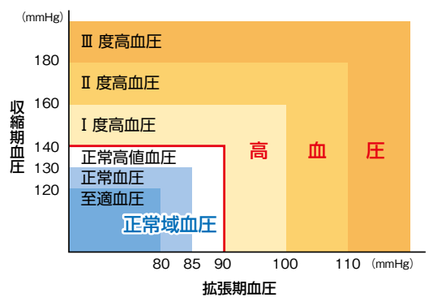
その❷ 脳卒中の原因は？

最大の誘因は高血圧です。高血圧の状態が長く持続すると、動脈硬化が進行し、脳卒中を引き起こす危険性が高くなります。冬場の朝方は寒さで更に血圧が高くなりやすく注意が必要です。

また、心房細動という不整脈がある方は、心臓の中に血液の固まりができやすくなります。それが脳に飛んで脳梗塞を起こすことがあり、通常の5倍もその危険性が高くなります。



診察室血圧に基づく血圧の分類



その❸ 脳卒中にかかるとどうなる？

脳卒中にかかると脳細胞が壊れ、意識を失ったり、半身まひや言語障害、認知症を引き起こしたりします。また、この前兆として頭痛やめまい、手足の痺れや舌のもつれなどを伴うことがあります。脳卒中は時間との勝負です。これらの症状が見られたらすぐに近くの医療機関に相談して下さい。

その❹ 脳卒中は予防が大事！

予防の為のはじめの一歩は、高血圧の状態が長く続かないようにすることです。糖尿病や肥満、喫煙は高血圧になる危険性を高めてしまいます。タバコをやめて、塩分・脂肪・糖分を控えたバランスの良い食生活を送ることを意識しましょう。また、ウォーキングなどの軽い有酸素運動を習慣的に行うことも血流を良くする助けになります。

脳卒中を防ぐためのチェックリスト

- ☑ 高血圧、心房細動、糖尿病などは脳卒中を引き起こす危険性を高める。
- ☑ 脳卒中は時間との勝負
- ☑ 脳卒中は予防が大事!
  ①食事療法
  ②運動療法
- ☑ 定期的な受診を!

理学療法士は予防と脳卒中後の回復を目的とした運動を指導します。

参考：厚生労働省ホームページなど

いつまでも輝いています!! 第12回長崎県ねんりんピック大会サポート活動報告

健康増進部 支援活動

長崎県すこやか長寿財団より依頼を受け、サッカー、硬式テニス、ソフトテニスの3種目において、救護班の一員として出場選手への救護活動や、コンディショニングとしてストレッチや、テーピング等に取り組みました!!

■開催日時　平成26年5月9(土)
　9時30分～17時
■場　所　長崎市かきどまり総合運動公園

試合の合間や試合後に訪れる選手が多く、なかには痛みに耐えながらプレイを続ける選手もおられ、スポーツを行う現場ではより適切で素早い対応が必要不可欠であると感じました。

昨今より言われている介護予防への取り組みが更に重要視されている中で、この大会は、参加された選手のように、**周囲と協力し、共に楽しむことで孤立を防ぎ、健康増進させ、要介護者の増加防止**に役立っているように思いました。

事業報告者
西　巧光(三河内病院)

「障がい」と…その先を!

福祉部 支援活動

第15回長崎県障がい者スポーツ大会(水泳競技)支援活動に参加して

in 長崎東公園コミュニティプール

長崎県障がい者スポーツ協会が主催で毎年開催されている大会です。

長崎県理学療法士協会 福祉部では、本大会の支援活動として『無料でマッサージやストレッチ、相談』などを提供する医務班として継続して活動させていただいております。

競技前後のコンディションの調整の補助、競技後には筋疲労回復を目的にマッサージやストレッチングを提供しました!!

スポーツの特性を知り、選手の特徴を捉え適確なコンディショニングを指導する"奥深さ"に難しさを感じました。

支援活動の中で「障がい者＝アスリート」「運営に協力する人々」などたくさんの関わりの中で、コミュニケーション力や知力、技力など『理学療法士』として日々精進しなければいけないという向上心が高まるいい経験となりました。

報告者
戸村　翔平(十善会病院)

雨ニモマケズ、風ニモマケズ!!

健康増進部 活動報告

4月19日に長崎招待ラグビーが長崎市総合運動公園で開催され、メディカルサポート活動を行ってきましたので、報告します。

トップチームで活躍する長崎出身の選手を中心とした選抜チーム**長崎ドリーム**と、大学選手権6連覇中の**帝京大学**との熱戦が【雨の中☔】繰り広げられました!!

その他、女子、高齢者、中学生、高校生とたくさんのラグビー選手が集うラグビー普及のために開催されています!

4名の理学療法士が活動し、私達は、高校選抜、長崎ドリームを中心に試合前のテーピング、試合中、後のアイシング指導等行いました。

事業報告　健康増進部

職場の壁を越えた、理学療法士の輪

～長崎西彼地区第2回勉強会～

報告者
上戸町病院　出口裕之

【テーマ】職場紹介を新人理学療法士がプレゼンテーション
【日　時】平成27年8月22日(土)
【場　所】長崎医療技術専門学校

企画者の感想

甲子園の時期でもあったので、「職場対抗新人戦!!☆うち自慢甲子園☆」と題して行いました。

内容は発表形式で、7分発表で質疑応答が3分行い、最後に一番良かった演題に投票し優勝を決めるという企画です。

発表に参加した病院、施設が多く15演題もの登録がありました。今回の企画のひとつの目的は新人さんに発表の場を体験してもらうものでしたが、学生さんも参加されており、それぞれの病院、施設の取り組みが職場愛と共に伝わり、就職活動?にもなる、とてもいい企画であったと感じています。

全発表を通して理学療法士の仕事は、チームアプローチと地域に根差した取り組みが重要であると再認識できました。

他施設で働く理学療法士の仕事にも目を向けて、良いところを真似したり情報交換がいつでもできるネットワークも大切だと気づきました。

優勝の上戸町病院チームから一言
うち自慢甲子園を通して、私たちの病院の特色や取り組みを改めて知ることができ、他施設へ発信できて良い経験となりました。また、他施設の特色や独自の取り組みを知る良い機会となりました。

患者様の"苦しみ"を少しでも軽減できるように‥

～諫早地区研修会～

日時:平成27年8月4日
会場:長崎呼吸器リハビリクリニック
講師:北川知佳先生(他長崎呼吸器リハビリクリニックスタッフ4名)

『呼吸リハビリテーションの実際』

全国の中でも先進的に呼吸器リハビリテーションに取り組まれている先生方に、「呼吸運動」と「呼吸介助法」について実技を中心にマンツーマンの講義をしていただきました。

県北・県南の遠方から参加された方も多く、35名の参加があり活発な意見交換がありました。病院・施設など多分野の方の参加があり、呼吸リハビリテーションの需要が高いことが認識できました。

報告者:西　翔平(諫早記念病院)

『関節の動き、痛みを良くする!!』

～下五島地区勉強会～

日時:平成27年8月1日(土)
会場:長崎県五島中央病院
講師:首都大学東京 健康福祉学部理学療法科 竹井仁先生

『四肢の関節モビライゼーションと運動』

臨床と研究分野ともに第一線でご活躍されている、竹井先生をお招きし、最新の知見と実技を交えて講演頂きました。

関節モビライゼーションとは、理学療法士がゆっくりとさまざまな振幅で反復的に関節を動かし,動きや痛みを良くするための手技です。

島外からも多数集めた参加者の声は、「理論的に説明を受け、自分で動かす運動の併用が必要なのか理解できた」「今回の経験を臨床現場でよりよいリハビリテーションの提供に繋げていきたい」などあり大変貴重な機会となりました。

実技の直接的な指導!

島外からも多数の参加者!!

報告者:田中　秀幸

たくさんの『一歩』と歩んで50年

50周年
記念サイト

公益社団法人
日本理学療法士協会
Japanese Physical Therapy Association

http://50th.japanpt.or.jp/

日本理学療法士協会設立50周年を迎えました。特設ホームページが開設され、50年の歴史や理学療法士の現在の状況、各都道府県士会の紹介などが公開されています。NPTAでも塩塚が執筆しましたので、一部紹介します。

長崎県士会の紹介

○**設立年：**1971（昭和46）年
○**2015年4月1日時点会員数：**1,841名

長崎県理学療法士協会の歴史は1971（昭和46）年、日本理学療法士協会設立から5年後、16名の会員で始まりました。設立初年度の特別講演では『イギリスの理学療法-特に脊柱について-』が長崎大学医学部整形外科の医師を講師に開催されました。鎖国時代に唯一海外との貿易が許され、日本における西洋（近代）医学の発祥の地とも知られる長崎県の歴史との繋がりについても感慨深いものがあります。オランダ人ポンペと松本良順の尽力により1857年に開設された長崎伝習所（後の長崎大学医学部の基礎となる）から『医は長崎から』という言葉が生まれました。16名から始まった長崎県理学療法士協会の歴史は、現在では1900名余りの会員が在籍し、地域に根差した活動を継続し日本最西端長崎県に様々な情報を集め、発信できるよう努めています。

長崎県は【坂が多い】、【離島が多い】などの地理的特徴があります。長崎県理学療法士協会の歴史においても、『坂との戦い』、『離島（過疎地）との戦い』は強く意識して発展したと考えています。設立当初から議論され続けた地域に帰すためのリハビリテーション専門職としての考え方、医療、行政、保健、福祉機関など他職種との連携を基盤としたマネジメントの歴史は、現在もリハビリテーションにおける地域医療に大きく貢献していることは間違いありません。

現在の長崎県でも、離島などを中心に出生率の低下に加え、就学期を過ぎると都市部へと転住する社会移動など人口の減少とともに大きな問題となっています。急性期医療から終末期医療そして地域で生活する高齢者、国民を支える重要な立ち位置に理学療法士は存在しています。全国的にも、2025年に高齢者を地域で支える仕組み「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。地域で暮らす国民皆様の様々な場面で“自分らしい生活”に向き合い、一緒に努力していける高い資質の理学療法士の育成とシステム作りを目指していきたいと思います。まだまだ未熟な会ではありますが、行政、医療、保健、福祉各関係団体のご協力、ご指導を今後も賜りたいと存じます。

野村克也前楽天イーグルス監督の語録に「若いときに流さなかった汗は、年を取ったときの涙となる」という言葉があります。当士会は若い会員が多く、これからのリハビリテーションを背負っていく責任・義務があります。知識・技術の研鑽は重要ですが、人間性や社会性を高め、患者さんをはじめ多くの県民の期待に応えるよう努力していきたいと思います。

編集後記

いつも、新しい『一歩』…

昨年度末、協会誌として長い歴史の中で繋がった本誌は一般の方にも読んでいただけるように「新しい一歩」を踏み出しました。読んでいただけた方からは、大変ありがたい好評もいただきました。まだまだ内容も拙いところがあると思いますが、記念すべき第2号です。編集する私たちにとって、毎回が大切な大切な新しい『一歩』です。これからも愛読いただける広報誌を目指して頑張りたいと思います。

＼ 表紙タイトルについて ／

「ぴーかん」とは…

時勢の意味ある情報の提供!!

「快晴」を表す意味。昭和の映画界で撮影時に使っていた言葉です。言葉の由来には、2つの説があります。

■快晴の日は、カメラのピントが合うことから「ピントが完全」を略したとする説
■太陽の光が「ピーンと届いてカンカン照り」という状況を略したとする説

「テラス」とは…

相互間の情報が集う場所=繋がり!!

「テラス=照らす!!」という意味で温かく対象者を支え、情報の共有による相互間コミュニケーションを目指したいという情報が集う場所をイメージしています。

■テラス(Terrace)は、バルコニーやベランダのことで、住宅や店舗が壁を共有して繋がる建築をテラスハウスと言います。

読者のみなさま

「ぴーかんてらす」へ情報をお寄せください!!

「理学療法士協会 広報誌」リニューアルに伴い、理学療法士や市民のみなさまに向けたコーナーも充実させていきたいと考えています。

◎日常のうれしいできごと
◎日頃取り組んでいるリハビリにまつわること
◎私の○○自慢
…など、皆様からのさまざまなお便りをドシドシお寄せ下さい!!

お便りの送り先
〒851-0103　長崎市中里町96番地
和仁会病院（担当：大石）
FAX／095-837-1230
メール／nptakouhou@gmail.com

ぴーかんてらすは、デジタルブックでもご覧になれます!

●パソコンからのアクセス
ぴーかんてらす　理学　検索
http://www.nagasaki-ebooks.jp/

●nagasaki e-booksのサイトの右上の検索窓に「ぴーかんてらす」と入力するとデジタルブックページにジャンプします!
●携帯・スマートフォンからのアクセスは、右のQRコードから